第7章

第5章 誤差最小化 演習問題

7.1 演習の目的

最小二乗法の閉じた解と最急降下法のアルゴリズムを Scilab で実装し、学習の手順を確認します。

7.2 準備

- 1. 行列の転置
- 2. 逆行列
- 3.2つのベクトルの要素毎の和
- 4.2つのベクトルの要素毎の積
- 5. ベクトルの各要素のべき乗
- 6. ベクトルの全要素の和
- 7. 絶対値 (abs 関数)
- 8. 無限大の表現(%inf)

```
--> M=[1 2; 3 4]

M =
    1. 2.
    3. 4.

--> M'
    ans =
    1. 3.
    2. 4.

--> inv(M)
    ans =
    -2. 1.
    1.5 -0.5

-->a = [1 2 3];

-->b = [4 5 6];

-->a + b
    ans =
    5. 7. 9.
```

```
-->a .* b
ans =
      10.
  4.
          18.
-->a.^2
ans =
      4.
           9.
  1.
-->sum(a)
ans =
  6.
-->abs(-5)
ans =
  5.
-->abs(5)
ans =
  5.
-->c = %inf
c =
  Inf
ans =
 Т
```

実践演習 7-1

教科書 p.64 図 5.2 のデータを用いて最小二乗法の解析的な解法を記述した以下の Scilab のコードを完成させよ。

```
clear;
X=[1.0 0.5 -0.2 -0.4 -1.3 -2.0]'; // 学習データ
y=[1 1 0 1 0 0]'; // 教師信号
[n, d] = size(X);
X = [ones(n,1), X]; // 特徴ベクトルに0次元目を追加
w = (ア);
mprintf("Results: w0 = %6.3f, w1 = %6.3f\n",w(1), w(2))
```

実践演習 7-2

Widrow-Hoff の学習規則を記述した以下の Scilab のコードを完成させ、異なる初期値・学習係数での 学習結果を確認せよ。

```
clear;
X = [1.0 0.5 -0.2 -0.4 -1.3 -2.0]'; // 学習データ
y = [1 1 0 1 0 0]'; // 教師信号
[n d] = size(X);
X = [ones(n,1), X]; // x_0 軸を追加
eps = 1e-8; // 終了判定の閾値
differ = %inf; // 二乗誤差の変化量
olderr = %inf; // 前回の二乗誤差
w = [0.2 0.3]'; // 初期重み
```

実践演習 7-3

教科書 p.112 図 8.4 のデータを用いて、最小二乗法の解析的な解法で識別面の方程式を求めよ。ただし、教師信号は教科書 p.65 の脚注に従い、1 と-1 にすること。また、クラス ω_2 に点 (3,3.9) を加えた場合に識別面がどのようになるか観測せよ。